



ニューオーリンズの中学校訪問でスウィング・ドルフィンズと共演する外山喜雄・恵子 (撮影：小泉良夫)

特別寄稿

日本ルイ・アームストロング協会
外山 喜雄 恵子

日米被災地の子供ジャズバンド、 聖地でTOMODACHI交流

ジャズの故郷から 楽器のプレゼント

「ニューオーリンズの皆さん、ありがとうございます」

ジャズの故郷ニューオーリンズから贈られたピカピカの楽器を手に、小中学生からなる子供ビッグバンド「気仙沼スウィング・ドルフィンズ」が、ニューオーリンズの人々へ感謝の言葉を述べる画像がニュースやYouTubeに登場したのは東日本大震災から一カ月後、二〇一一年四月のことだった。

彼らは、東日本大震災の大津波で楽器や練習所や家を流され、ニューオーリンズのライブハウスが贈ってくれた楽器でバンドの練習を再開したのだ。

この楽器プレゼントは、私たち日本ルイ・アームストロング協会が一九九四年から続けてきた、ニューオーリンズの子供たちに楽器を贈る活動へのお礼として実現したものだ。

銃に代えて楽器を 二十年越しの夢が実現

私たち夫婦はサッチモことルイ・アームストロングに憧れ、一九六八年移民船に乗りサッチモの故郷ニューオーリンズに渡り五年間ジャズの巨人たちからジャズを学んだ。お世話になったニューオーリンズの人々、また、アメリカが世界にくれた最高の贈り物「ジャズ」へのお礼の気持ちを含めて「サッチモの孫たち」のようにニューオーリンズの子供たちに楽器を贈る活動を始めた。

銃や麻薬が氾濫するスラムの子供たちとアメリカ社会に、銃の発砲で少年院に入りトランプと出会い偉大な一生を送ったルイを想い出してもらいたい。銃に代えて楽器を持つという活動。使われていないトランペットなど楽器の寄付が全国から寄せられ、日本通運のご協力を頂き十九年間で日本から送った楽器は八〇〇点にな

った。二〇〇五年にはニューオーリンズがハリケーン・カトリナで未曾有の被害を受け、楽器や全国のジャズファンから寄せられた一千万円超の義援金を直接ミュージシャンたちに届けた。

そして六年後、思いもかけない大災害3・11東日本大震災が日本を襲った。今度は、ニューオーリンズがお返しをする番と立ち上がってくれた。私達夫婦が橋渡し役となりライブハウス・ティピティナスの財団からの寄付でスウィング・ドルフィンズのメンバー全員の楽器を購入、子供たちの可愛いスウィングが復活した。

日米被災地の子供達 ジャズで交流

震災から一カ月でドルフィンズの可愛いジャズが復活し、ちびっこジャズメンたちの光り輝く目を見たとき、是非、楽器を贈ってくれたジャズの故郷の子供たちと、楽器を贈られた被災



ニューオーリンズのルイ・アームストロング国際空港では、ジャズバンドがお出迎え (photo by Daniel Erath)



ニューオーリンズ共演する

地の子供たちを会わせてあげたい、という夢が芽生えた。このドルフィンズの復活をニュースで知り感激した人々の中にルイス・アメリカ大使がいた。大使は自身のツイッターでこのプレゼントと私たちの仲立ちを称賛してくれたのだ。

こうしてルイス大使が提唱し、アメリカ大使館が力を入れる日米交流プログラム、トモダチ・イニシアチブとの関係が芽生えた。私達日本ルイ・アーム

ストロング協会とニューオーリンズのライブハウス・ティピティナス、国際交流基金が主催し二〇一二年十月、まず楽器を贈ってくれた街ニューオーリンズの高校生たち十六人が来日、石巻、気仙沼、仙台の被災地を回り、子供たちのジャズバンドと交流、共演した。そして、今年八月、スウィング・ドルフィンズがニューオーリンズを訪問するという、夢のジャズ・トモダチ交流が実現したので。

「ドルフィンズ」ジャズの故郷のサッチモ・ジャズ祭に出演

ニューオーリンズが生んだジャズの王様ルイ・アームストロンを讃えるジャズ祭、サッチモ・サマーフェストは、サッチモ生誕百年に当たる二〇一〇年から毎年ニューオーリンズで開催されている。私も毎年出演、日本のサッチモとして大人気を得ているジャズ祭だ。

ルイス・アメリカ大使のトモダチ・イニシアチブ（トヨタ自

動車、三菱商事、日立製作所の多大な支援提供）交流で、ドルフィンズは七月三十一日から八月七日までニューオーリンズを訪問、灼熱の太陽の下ニューオーリンズの文字通り「暑いジャズ祭」に出演、昨年来日した高校生たちが通う学校訪問やライブハウス・ティピティナスへの出演、地元テレビ出演と忙しくまた貴重なジャズの故郷体験の夏休みを過ごした。

ティピティナス、国際交流基金、そして私達主催の形で行われたこのジャズ・トモダチ交流、現地ニューオーリンズでは大変な盛り上がりで、バンド到着前夜には地元WFLテレビが昨年実現したニューオーリンズの少年たちの訪日交流をドキュメンタリー番組にまとめ、「悲劇から勝利へ (Tragedy to Triumph)」と題してドルフィンズ・スペシャルを放映。一夜にして日本の子供たちは人気者となり、あちこちで「ドルフィンズでしょう」と声を掛け



サッチモの銅像が建つルイ・アームストロング公園で (photo by Daniel Erath)

られていた。ミシシッピ河で蒸気船に乗船したり、ジャズのメッカ、プリザベーション・ホールでジャズを鑑賞、ジャズ・クリニックも受けた。ミシシッピが蛇行して出来たワニの生息する湿地帯スワンブを探検、可愛いワニに触ったり、楽しいジャズ・ジャズ・ジャズの夏休みと、夢の旅を私たちがプレゼントすることが出来て、大変うれしく思っている。

私の大好きなサッチモも、天国からこの可愛いジャズ交流を見て、あのダミ声で「オー・イエス♪」と言ってくれていることだろう。

S